

十神山



会報 安来節

YASU GI BUSHI

発行所 安来節保存会

〒692-0064
島根県安来市古川町534
TEL 0854-28-9988
FAX 0854-28-9393
http://www.y-hozon.com/
E-mail:admin@y-hozon.com

新名人に聞く

今年初の唄い初め会に於いて、二代目渡部音吉さんが絃の部で名人に推挙されました。新名人に、喜びの声と今後の抱負を伺いました。

「三味線一筋に」

— 安来節保存会に感謝しつつ —



絃名人
二代目 渡部音吉
(本部道場)

平成十八年一月 時あたかも安来節保存会にとりまして画期的な催事となりました。保存会員が長い間念願としていた拠点安来節演芸館が完成しました。このような記念すべき時に絃の名人位を頂き、この感激をなんと表して良いのか思い当りません。木の香りも新しき演芸館で唄い初めが催され、文字通りの檜舞台で免許状を頂きました。永年保存会員としてきましたが、これまでたくさん先輩諸兄に多く学びそしてはかりきれない援助を受けました。同時に数え切れない友人も出来ました。今は安来節保存会員で良かったと感謝の念でいっぱいです。

父親が楽器好きで、特に三味の音にひかれて習い始めました。その後渡部音吉師匠に弟子入り致しました。安来節は多くの方が楽しんでいましたので、親戚からは心配のあまり三味線をやめる様に説得されましたが、自分なりに続けて今日に至りました。そして昭和二十六年から安来節教室がNHKラジオ放送であり、これから戦後の黄金期が始まりました。今は民謡の低迷期です。安来節は素朴で哀愁を感じる民謡です。出来るだけ多くの人に接して頂き親しんでもらい、次代につながる様に努力したいと思っています。

幸い保存会の会員数ほどの民謡会よりも多数と聞いております。この力が十分に発揮出来る様に微力ながら力を注ぎたいと思っております。今後とも変らぬご愛顧の程をお願い申し上げます。

先覚性と逞しい商魂

— 安来節が育った自由闊達な風土 —

並河健蔵

藩政の頃から明治・大正時代にかけて、交易港として栄えた安来の町に城下町では見られない自由闊達な風土が醸成された。それは港で交流する商人たちの積極的な商取引や情報交換の中で次第に形成されたのである。ここでは逞しい商魂の担い手たちが繰り広げた業績を記してみたい。

① この投資は、大阪の商船主と安来の荷主の双方の負担金で償却するもので、現代の採算を度外視した公共工事とは異なる。

② 明治三十年前後に設立された雲伯鉄工や安来銀行などの集団による運営は、すでに防波堤の建設事業に、その萌芽をみることが出来る。

防波堤の修築

大正四年刊の「安来港誌」は、防波堤の修築と題して誇らしげに、次のように記している。

明治十九年より二十一年に亘る継続事業として修築せるものにして、永盛社、回漕店、独立会の共同企画する所、工費として大阪の商船主名越愛助氏より積卸貨物一個に付き一厘宛、安来荷主側より同様の賦課金を徴し以て之を完成せり

(以下略)

この事業を今日の視点からみると、次のような意味をもっている。

① この資金は、地元商人たちの募集講で蓄積したものを、有効に活用しようとして投資された。灯台や倉庫をもつ全長百二十メートルの防波堤は、当時とし

精米業の発達

古来、港には地元の他に出雲平野や鳥取県西部など広い地域の産米が積み出されたので、多くの米問屋が繁盛した。明治初期のことである。主な出荷先である京阪神の米相場は、境港に寄航する船舶から得るのが慣例であった。安来の米問屋たちはいち早く知るために弓が浜・米子經由馬を走らせたという。

ところが長い防波堤が完成すると、弓が浜から防波堤に向かつて、手旗信号で伝えたという。この逸話の真偽の程はともかく、正確な情報を誰よりも早く知ることが商売の要諦であり、米問屋がいかに機敏であったかを如実に物語っている。

この機敏性が、精米業の発達に拍車をかけた。大阪商船による交易が定着するにつれて、玄米の積出しは増加したが、さらに精白米の移出が盛んとなり、この業界は一層隆盛を見るに至った。つまり玄米に付加価値をつけることにより収益が上り潤ったのである。ちなみに明治四十二年には精白米が、港の移出品目の過半数を占めるに至ったのである。

精米業の発達

一方、京阪神での安来米の評価は高まるばかりであった。すでに亀治米という新品種によって、安来米は兵庫の格付米となっていたが、精米によって①安来米は生白であり②乾燥方法の改善によって品質が向上③さらに精米一俵について、二、三合を加えることを励行したことなどで、安来米は著しく高値がつくことに成功したのである。

① 当時の商人たちの進取の精神と先覚性が、事業の発展をもたらした。

② 明治三十年前後に設立された雲伯鉄工や安来銀行などの集団による運営は、すでに防波堤の建設事業に、その萌芽をみることが出来る。

大小鼓製造卸販売



住所：島根県松江市馬潟町360-13
電話・FAX：0852-37-2033
E-mail：ks36013@web-sanin.co.jp

※通信販売も致しますので、お気軽にお電話ください。修理、下取りもご相談ください。

安来節京都南座特別公演ビデオ 注文 受付中!!



あの感動が再びここによみがえる

「安来節京都南座特別公演」
～阿国のふるさと・山陰の民謡と踊り～
●DVD 6,000円(税込み)91分
●ビデオテープ 6,000円(税込み)91分
(時間の都合上、編集をさせていただいております。)

申込先
安来節保存会事務局

〒692-0064 島根県安来市古川町534
TEL 0854-28-9988・FAX 0854-28-9393
E-mail: admin@y-hozon.com

※数量に限りがございますので、売り切れの際はご了承下さい。

お支払い方法は、商品と合わせて振込用紙を同封いたしますので、後払いとなります。(郵送料は別途500円必要となります。)

「安来節と共に歩んだ六十年」

絃名人 三代目安達順吉 (本部道場)

今は亡き、初代安達順吉師匠の独創性高い芸。品格の高い三味線の二代目安達順吉師匠に長年指導を仰ぎ、三代目を継ぐ者として誇りに思い、今後とも一層努力を重ね、後進の指導に力を注いで行きたいと思いを新たにしております。



十七年も過ぎました。特に一昨年は名人として特別出演を終えて、我ながら感無量でありました。戦後まもなく保存会が復活致し、大会は旧安来小学校の講堂であり、終日一寸の隙間も無く盛況の中での大会でありました。昭和二十七年の大会に、絃の三級より師範までの最高点の人に前研究会長の三島益夫氏の手画の優勝額が寄贈になり、話題となりました。当時私も准師範で出場して、優勝を手にする事が出来て感激したのを今でも鮮明に思い出します。以来私が高齢で大切に保存致して居りましたが、この度の安来節演芸館のオープンに際し寄贈致しました。展示室に掲げて頂き望外の喜びでございます。皆様方には、安来節演芸館の御来館の際には御高覧戴ければ幸甚に存じます。安来節と共に演芸館の益々の御隆昌を祈念致すところであります。

私と安来節



唄 准名人 古本 充 (津ノ井支部)

この度、私事栄えある安来節・唄・准名人に推挙され、この榮譽に対し身の引きしまる思いです。

振り返りますれば昭和四十九年、家内と共に軽い気持ちで保存会に入会、しかし段々と覚えていくうち、これまで自由奔放に唄っていた我流が邪魔をして正調安来節にならず、二代目出雲愛之助先生の御指導を受けた移動講習会

で何度も何度も冷汗をかいたのを昨日のように思い出します。いたって不器用な私でしたから、各諸先生方にも御指導いただきながらご迷惑をおかけしたと思います。

平成十八年新春唄い初め会が、会員永年の念願であった安来節演芸館に於いて、一月十六日に関係各位はもとより会員多数集う中、華やかに開催され前日の竣工式後の木の香りの中、この唄い初め会の皆様方の前で晴れて免状授与され、その後唄の披露となり、この事は今後の私にとって大きな励みとなり大切な宝物をいただきました。これも一重に皆様方の暖かい支えがあったからこそと肝に命じております。未熟者でございますが、准名人の名に恥じぬよう精進し頑張る所存でございます。今後一層の御指導、ご鞭撻の程御願ひ致します。

会員の声コーナー

踊り覚え書 その3 「踊の指標について」



「踊り覚え書 その3」 踊というものは、そもそもこうあらねばならないといういわば総論としてまとめたいものを聞いたことがない。以下私の覚え書です。

第一に島根新聞(現山陰中央新報社の前身)昭和三十六年元旦号に高山雅市師と二代目出雲愛之助師との対談が掲載されている。その中で二代目出雲愛之助師をして「高山さんの踊りはすばらしい」といわしめている踊りはどんなものであろうか。二代目出雲愛之助師の「陽気なリズム」の指摘のあと高山雅市師は「表情の豊かなこと」を挙げている。第二に前安来節資格審査長、川部康先



松江誓願寺

生(現山陰中央新報社の前身)の全国優勝大会踊りの部の講評で踊は、一、に豪快であること 二、に野趣に富んでいること 三、に滑稽であること 四、に上品でなければならぬの四点を指摘していた。

第三に私自身踊りを勉強する立場から軽快な早調子のリズムにのることの大切さを痛感している。以上を要約すると「豪快で野趣に富み、滑稽であり上品であること。そして陽気なリズムにのり、表情豊かに踊らねばならない」ということになる。 それではどういふ踊りがそうなるのか、無限の研究工夫が求められるゆえんだと思っている。 東京支部長 棚橋 保

イタリア・ジャパン ウィークに参加して

昨年の十一月十九日～二十五日の間「ジャパンウィーク二〇〇五年イタリア・ナポリ」に日本側参加者約一五〇〇人のうちの一人として一〇人の仲間と行ってまいりました。

これは日本の文化をイタリアの方々を知っていただく為、北海道から鹿児島までの皆さんが集まり、唄・踊り・スポーツ・書道・お茶・着付けなど各分野の方々との交流会です。

私たち安来節保存会のメンバーは、初日のオープニングセレモニーレセプションに参加して「ベリーニ歌劇場」で公演し、山陰では島根県から「むらくも座」、「有福神楽」と私たち「安来節」の三団体、鳥取県は「壺踊り」の一団体の参加でした。

公演前には小学校で訪問交流をということで、ナポリ市の千人の小学児童と四百人の幼稚園児と一緒に学ぶ学校で四年生の生徒さんたちと二回に分けて交流し、公演の後「どじょうすくい踊り」を一緒に踊り、先生方をはじめ皆さんに大



本部道場 今岡淑子

変喜ばれました。

最後にこちらから銭太鼓を贈呈し、子供たちからは「絵」のおみやげとみんなで歌をうたってお礼をしてくれ、本当に感激でした。

イタリアの食事はパスタ、スパゲッティ、ドリアの前菜と肉、そしてケーキ菓子、野菜らしきもの少々、飲料水も有料、トイレも約七十円位での使用料で、日本がいかに平和で豊かな暮らしかが外国に行くとよくわかりました。しかし、歴史の面ではすばらしい遺跡、美術館等目をみはるものばかりでした。

私と安来節



数年前に安来節の全国大会を見学した折、広い会場に唄、絃、鼓と熱気溢れる

ばかりの出演者、それらを審査する十三名の審査員の真剣な姿勢に、圧倒される共にいたく感銘を受けたことがあり爾来、安来節は私の心を揺さぶり続け師範取得へと挑むこととなった。

地方での無資格から准師範までの過程は、底辺を広げる保存会の趣旨も有り六七年で准師範までは到達するものの、人を指導する資格者となる師範のライセンスの壁は厚く、大抵の者が三四年は辛酸をなめる、中には一回で通過する者もおり羨望の的になったりで各々の努力や能力の違いもさまざま。

安来節は一般民謡と比べて声が出にくい、男性は特に高音が出にくく、一文字つつ母音をつけるなどの節廻しが会得しにくい、先生方のテープも参考にはなるが中々身につかない、絃では重ねバチの間のとりかたも独特で、メリハリのつけ方で優劣が決まる、基本的に調絃も他の絃楽器とは異なり常に不安定、それでも年々師範資格者は増え続けている中で、同じレベル同士では、どんぐりの背くらべて互いに指摘し合うことは出来にくいのが現実であり、大師範の指導を受けることが出来る島根の各支部の陣容が羨ましいとも思う。

しかし大師範の誕生はたやすいことではない、種々条件をみたし、自他共に認められる真の実力ある指導者が求められる。

安来節保存会は一世紀近い歴史を持つ西日本の文化として、日本三大民謡に位置付けられて今日あるも、情実を排し厳格な資格条件を遵守し、常にたゆまない研鑽をすることが、誇りある民謡となるのであり、大衆の心の糧として底辺を上げ更なる発展を念ずるものである。 広島南支部 片岡敏碩

安来節演芸館

竣工記念新歌詞

平成十八年一月十五日に竣工した安来節演芸館を記念して安来節の素唄・字余りの部で「安来節演芸館竣工記念新歌詞」を募集いたしました所、全国から素唄七十四点・字余り三十九点の多数の応募がございました。その中から選ばれた、入選作品、佳作作品を掲載いたします。



【素唄の部】

入選

〽赤いたすきに 鉢巻き締めて あの花見事な 銭太鼓
 〽生れ在所に 殿堂建てて 広い世界に 安来節
 〽唄と踊りの 演芸館を 永久に栄えん 末永く

(橘 茂子)
 (戸田 茂隆)
 (細田 智子)

佳作

〽唄は下手でも 自慢の腰で 見せてあげましょ どりよ揃い
 〽旅で覚えて また来て習い 今じゃ自慢の 安来節
 〽唄に恋して 出雲に来たが 心とりこの 安来節
 〽唄に踊りに 心はずむ 笑顔嬉しや 安来節
 〽遠く離れて 古里思う いつもなつかし 安来節

(安藤 功)
 (駒井 瞭)
 (入江喜太郎)
 (佐々木きぬゑ)
 (三浦 清市)

【字余りの部】

入選

〽あらたなる 唄の館で 未来を築く 永遠の栄えを願いつつ
 〽本場安来の名調子 いざや唄わん 安来節

(岩佐 勝雄)

〽安来節 砂鉄と共に 栄えた唄は 時の流れが 変わろうと
 〽根を張り 花咲き 実となりて 次の世紀へ つなぐ唄

(三保 利子)

〽平成の 御代に生まれた 演芸館に 唄い響けよ 安来節

(日原 昌子)

佳作

〽街に出て 何か一つと せがまれ唄う お国なまりの 安来節

(藤本 誠)

〽観光広瀬に 来てみやしやんせ
 〽歴史に名高い 月山城 広瀬がすりに 美術館

(坂東 富美子)

〽伯耆大山 しらじら明けりや 浮いた唄声廻合う
 〽郷土の誇る 演芸館 どりよ揃いに 銭太鼓

(松尾 清義)

〽能義平野 実のり豊かな 大地の恵
 〽白鳥飛来し 白い帯 心豊かに 暮らしたい

(佐伯 和子)

〽昔から やつとの思い 念願の芸の殿堂
 〽晴れ晴れと いやさか 広めん 安来節

(増野 清之)

平成十八年度 唄い初め会

安来節保存会の年頭行事である唄い初め会が平成十八年一月十六日(月)に前日竣工したばかりの安来節演芸館で開催されました。大勢の来賓の方をお迎えし、昇格披露、表彰者披露、支部競演、特別出演と練り広げられました。

支部競演成績表

- | | |
|------------|-------|
| 安来市長賞 | 加茂支部 |
| 安来市議会議長賞 | 宍道支部 |
| 安来市観光協会賞 | 本部道場 |
| 安来商工会議所会頭賞 | 神門支部 |
| 山陰放送賞 | 大東支部 |
| 足立美術館賞 | 大社支部 |
| 家納喜賞 | 仁多支部 |
| 天界酒造賞 | 鳥取中支部 |

安来節全国優勝大会

記録ビデオのご注文は!!

1991年~2005年の毎年3日間の競演

高品質な映像 迫力の音質

●あの興奮をもう一度...! 毎年8月に行われる安来節全国優勝大会の記録ビデオです。あなたの晴れ舞台、映っています。
 ●唄や踊りの手本に最適です。
 ●銭太鼓デモンストレーションバージョンもあります。

各¥5,500 (送料込み) 放送用カメラで撮影

踊り編・銭太鼓編・各級ごとにご注文下さい。

ご注文お問い合わせ

中四国映像製作社連盟加盟

ヴィエルシー株式会社

NLC Visual Audio Location & Creative

〒690-0012松江市古志原2-9-60
 TEL (0852) 27-7700
 FAX (0852) 26-8132
 E-mail vlcnct@viola.ocn.ne.jp

ひびけ歌声世界の空へ

支部情報

靖国神社「みたままつり」に出演して



関東支部長
若岑 礼

靖国神社では毎年戦没者の霊をとむらう「みたままつり」が開催され、昨年も七月十三日(水)から十六日(土)の三日間、各種の奉納芸能が行なわれました。安来節保存会関東支部も日本民謡協会から出演依頼を受けて昨年は七月十三日の午後にとじょう揃い踊りを、大勢のお客様の前で御披露させていただきました。本殿の横には能楽堂の舞台があり、この能楽堂

の舞台で関東支部の会員達が本場の安来節とじょう揃い踊りを演じました。陽気でコミカルなこの伝統芸能の踊りは非常に評判が良く、会場のお客様方は拍手大喝采で、出演した会員達も大喜びでした。

戦争中、戦地では島根県出身の兵隊さん達が軍艦マーチを口ずさみながら、とじょう揃い踊りを踊って楽しんでいたりという話を聞いたことがあります。この話の内容が「ハルピン帰りのヤスケ」というお芝居になり劇団「オフィス樹」が大変興味を持ち、早速関東支部の浅草道場へ通って練習に励み、又本場の雰囲気を知るために安来節全国優勝大会を見学したり、



安来市役所を訪ねて職員の方に親切に説明をしていただいたりして、その後東京池袋の芸能グランプリ大会に出演して、最高の輝かしいグランプリ大賞を受賞したし、日本の伝統芸能安来節のお陰だと大喜びでした。私もこの事が安来節保存会にとっても大きなPRになったと喜んでおります。

支部紹介



広島東支部長
三崎 琢

広島東支部は、広島地区で二番目の支部として、昭和四十九年十二月に設立され今年で三十二年を迎えました。平成十六年十二月には、支部設立三十周年記念祝賀会を開催いたしました。

研鑽の場としては日々の稽古はもちろん、イベント、余興、慰問、また都道府県対抗男子駅伝のふるさとステージなどに出演し、一致団結・和・協調をモットーに、先輩から受け継いだ組織を守っております。さて私自身が、安来節を始めるきっかけになったのは、スポーツに明け暮れていたある日、自分の打ったボールが手ごたえとしてはホームランと感じる当たりなのに、外野手のグローブの中に、その出来事をきっかけに無芸大食の自分に出来ることで、人があまりやっていないとじょう揃いを習い始めたのが、はじまりで今日にいたっております。

「ドスコイ！安来節」



東京でも唯一の名所である大相撲の殿堂、両国国技館において平成十八年二月十八日(土)全日本相撲甚句大会が開催されました。

拍子で「ドスコイ、ドスコイ」というハヤシを入れ、相撲独特の情緒をかもし出す唄です。歌詞も全国各地の名所を唄ったものが多いのですが、その中で島根県出身の第十二代目横綱、陣幕九五郎という人の昇進記念として作詞された歌詞に魅せられて、安来節保存会関東支部代議員、若岑佳声さんが国技館の両国道場に行つて相撲甚句の稽古をして国技館の両国道場の代表として指名され、六千名の観客の前で晴れの出演を飾りました。私達関東支部の会員とファンの方達三百十二名が土俵前の栈敷席で応援いたしました。

事務局移転のお知らせ

4月3日より事務局の住所と電話番号が変わります。

〒692-0064 島根県安来市古川町534
安来節演芸館内
安来節保存会事務局

TEL 0854-28-9988
FAX 0854-28-9393

事務局からのお知らせ

4月1日より安来市の人事異動に伴い事務局長が代わりました。

新事務局長 ^{いた} ^{もち} ^{こう} ^き
板持 功 毅

安来節ミニライブショー

毎週土曜日 午後 1 時・3 時 2 回公演
入場料 1,000 円

正調安来節銭太鼓教室

- ◆ 第1・第3水曜日・土曜日 4時30分～
- ◆ 月謝・月2回けいこ 5,000円
- ◆ 入会金 3,000円
- ◆ 安来節保存会関東支部 浅草道場 (浅草雷門くぐり左折徒歩30秒)

〒111-0032 東京都台東区浅草1丁目18-3
TEL・FAX 03-3847-0215

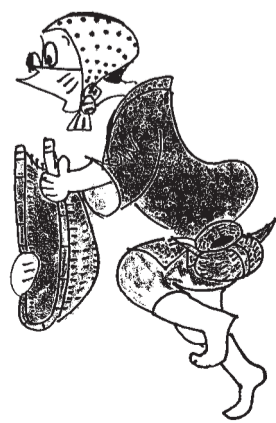
正調安来節銭太鼓・製作・販売
3,500円(送料別) Tel・fax 048-296-1328



正調安来節銭太鼓
師範 阿部洋二

創部10周年(平成18年11月)

東京支部 10周年記念



安来節保存会 東京支部